

マリアン 会報

発行 ノートルダム女子大学同窓会

卒業生の皆様へ

学長 シスター・メリー・マイクル田代

卒業生の皆様、昨年は例年よりさらに早く過ぎ去った感じでしたが、皆様にとってもそんな感じの一年でしたでしょうか。

昨年十二月十日、国立京都国際会館で行なわれましたノートルダム女子大学創立三十周年記念式典は、天候にも恵まれ卒業生の皆様も一〇三名が参列され、盛大に挙行されました。

当日のプログラムを簡単にご紹介しますと、第一部は式典で学長式辞のあと、猪木正道先生と同窓会長高山敦子さんが祝辞をのべて下さいました。第二部は感謝のミサで村上真理雄副司教様とメリノール宣教会のマイクルマキロップ神父様、パトリックオダナヒュー神父様（ノートルダム女子大学英語英文学科教授でもあります）三人の司祭方がミサを捧げられ、共同祈願の時には一期生の中島克子さん（ノートルダム女子大学英語

英文学科非常勤講師）が卒業生を代表して祈られました。

ミサ曲はモーツアルトのミサ曲二長調で、指揮ジャン・メルオー神父様で、合唱団には卒業生、長束香代さん、青池美樹子さん、河村寧子さんも参加されました。第三部はミニコンサートで箏曲部、マンドリン部、合唱団が参加、合唱団はジャン・メルオー神父様の作曲、指揮の「サルヴェレジナ」でしたが、この時も卒業生、磯野高子さんほか七名の方々が参加されました。このあと学生のみ帰途につき、会館内の「白鳥の間」で祝賀パーティーが和やかにくりひろげられ、東朝子先生、山根ひろみ先生の歌とハーブなども一層親睦のムードを高めました。同窓会からのお祝金をはじめ会員の皆様方から祝意を表していたいただきましたことこの場をお借りして厚く御礼申しあげます。

創立三十周年を記念して、ノートルダム女子大学三十年史も刊行されましたので、卒業生の皆様でまだ入手されていない方々は是非お求めになりますようお願いいたします。三十年史をひもときながら皆様方それぞれの学生時代を思い出してみられませんか。記念式典の式辞の中でもふれたことですが、本館南側のヒマラヤ杉も当初は背丈の低い細い幼木でありましたが、三十年の間に見事に成長し、天まで届きそうな勢いの大木になってまいりました。皆様のノートルダム女子大学も当初はヒマラヤ杉の幼木のようなものでありましたが、

が、この三十年の間に生長を続けよい伝統も培われてまいりました。卒業生の皆様方もこのために大きく貢献して下さいました。ノートルダム女子大学は「徳と知」に基づいて築かれて来た伝統、家族的精神を今後必要とする新しいものはどんなとり入れて二十一世紀をめざして更に大きく発展していきたいと存じます。卒業生の皆様もこの目的のため一層皆様の上に神の祝福と聖母マリアのご保護が常にありますように心よりお祈りしてご挨拶いたします。

総会へのご案内

同窓会の皆さまお元気でお過ごしでしょうか。今年も、同窓会総会へのご案内をさせて頂く頃となりました。今年、十一月十一期生が担当です。忙しい日常を離れ、ちよっとおしゃやれな、クラシックの小品を、エレクトーンのオーケストラサウンドとピアノで、サロンの雰囲気です。

しんでいただきます。多くの方々のご出席をお待ちしています。十一月十一期生一同
日時 五月十七日（日）
十一時半～三時
場所 宝ヶ池プリンスホテル
（六七二二一一二二）
ゲスト TM企画・睦会
会費 大人 七千円
子供 千円

同窓会館建築についての 報告とおねがい

中 島 克 子
(長谷川 一期生)

昨年度のマリアンで、前同窓会会長の塩田さんが、同窓会館設立についての記事を書かれましたが、今回は、設立委員会より、その後の経過と現在の進行状況、完成までの計画を報告させていただきたいと思っています。

一年前、大学から同窓会館の為に岩倉にある大学所有の土地を無償貸与して下さるとのお話がありました。それに続いて一期生六名が大学側の御意向により選ばれ、さらに同窓会役員より二名が加わり、計八名の設立委員会が、一月に発足いたしました。

その後委員会は大学と同窓会双方と密に連絡をとりながら、検討を重ね、ようやく建築に取りかかる準備がととのったところです。

昨年の報告と多少重複するかも知れませんが、まず同窓会館の場所と建物について説

う地価から考えると、とても普通では手に入るものではありません。大学側の御芳情に感謝するのみです。

次に建物についてですが、外観はキリスト教系の女子大学にふさわしいものという規準で選び、茶色のレンガ風タイルの洋風建築物で、窓の一部にステンドグラスが入る予定です。これは、有志の方が製作し寄付して下さいことになっております。

昨年の夏休み前より各委員がそれぞれ建築会社や個人工務店をあたり、協議を重ねた末、最終的に三井ホームに建築を依頼することに決定いたしました。又、昨年の同窓会総会で建物についてのアンケートをとり、出来るだけ皆様の御意見を反映するように設計いたしました。

簡単に説明いたしますと、一階は、事務所、多目的大ホール(約三五畳)キッチン、二階は、クラス等にも使用できる和室二、洋間一で、トイレは上下四ヶ所、浴室も備わっています。皆様がクラス会をなさる時、あるいは京都で宿泊なさりたい時などは利用

できることになるでしょう。

同窓会主催の各種クラス、恩師や旧友とのふれ合いの場、又、地域社会との交流など様々な利用方法が考えられます。規模から言って、ノートルダム女子大学同窓生の「生涯学習の家」という呼び方がふさわしいかもしれません。

最後に建築費用ですが、同窓会より五千万円の拠出金がありますので、建物、設備の殆んどはこれでまかなえるように住宅会社と交渉しました。

しかし、これに加えて、外溝工事、事務器械、家具、調理用具一式等々、かなりの出費が予想されますので、別紙にてお願いしておりますように、寄付を募ることにいたしました。募金は次の要領にて行う予定です。

一、募金委員を各学年五名選ぶ。

一、募金目標額を一五〇〇万円とする。

一、一口五千円とする。(勿論五千円以下の寄付金でも可)

一、卒業年度によって目標額を設定する。

一、六期 一学年につき

七〇万円(計四二〇万円)

七、十二期 一学年につき五〇万円(計三〇〇万円)

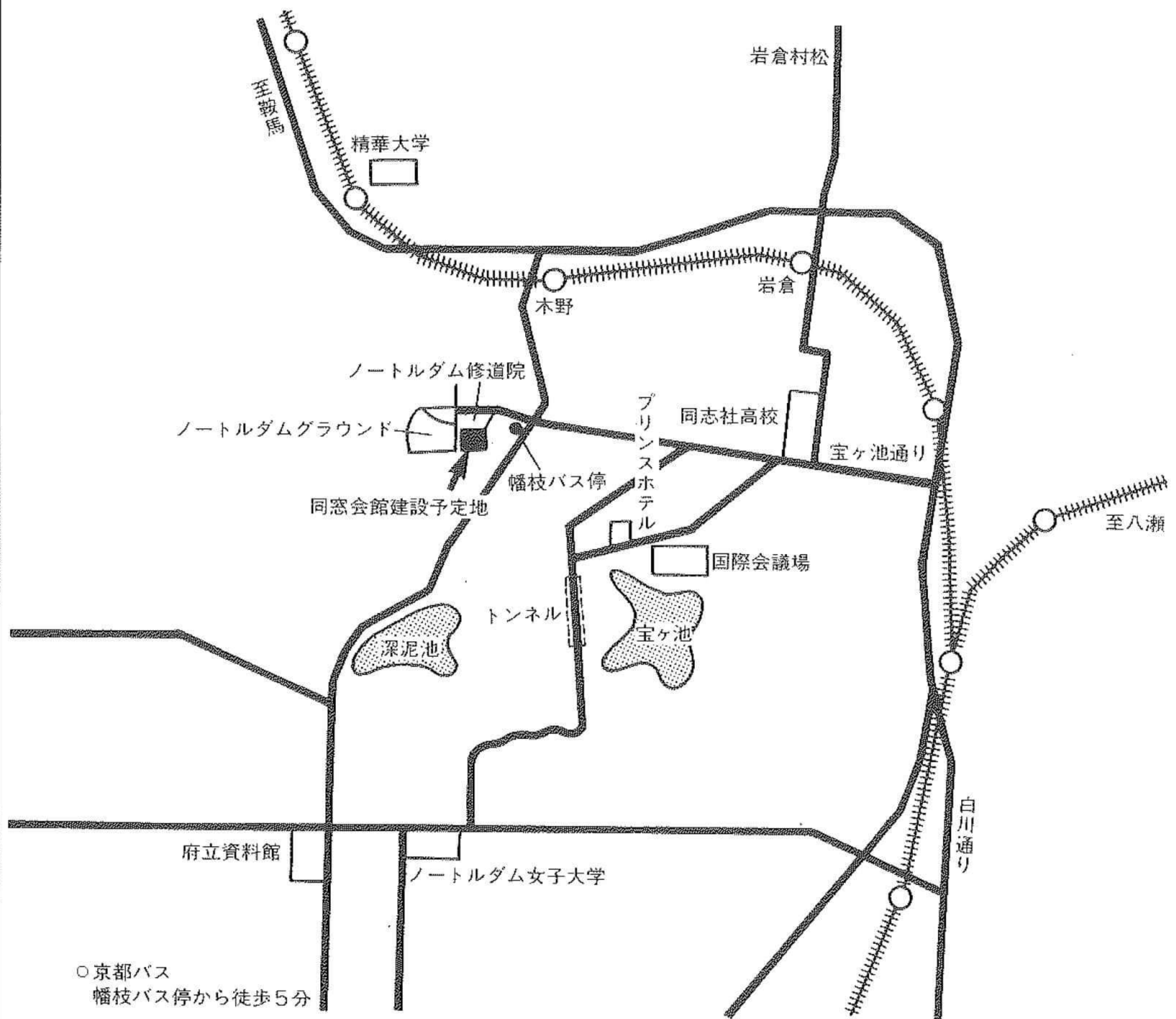
十三期、一八期 一学年につき三〇万円(計四八〇万円)

その他、同窓生以外の有志の方々や企業にも御寄付をお願いすることを考えております。

卒業生が女性であること、比較的若年層が多いこと等諸事情を考慮して目標額はできる限り低く抑えました。目標額というより必要最低限度額といってもよろしいかと思えます。なるだけ多くの卒業生の皆様に同窓会に対する関心をもっていただき、あたたかい御協力をお願いしたいと委員一同切に願っております。

同封の振込み用紙で、できましたら早い時期にお振り込みいただけますように何卒よろしくお願い申し上げます。尚御意見、御質問がございましたら、御遠慮なく同窓会本部あるいは当委員会まで御連絡下さいませ。

同窓会館設立委員会一同



「あいさつ」

会長 高山 敦子
(和泉 四期生)

爽やかな季節となりました。皆様如何お過ごしでしょうか。今年はおねてより同窓会の念願でありました同窓会館が、秋には完成予定でございます。大学、設立委員会の御好意と御協力により、着実に実現に向って進行中でございます。昨年は、十二月十日に、大学創立三十周年の記念式典が、国立京都国際会館において盛大に挙行されました。母校の繁栄と発展の歴史を振り返り、大変感動いたしました。

同窓会館設立が実現化しますこの記念すべき時に、会長という大役をいただきました事は、誠に光栄でございます。私事ながら、六年前に会長をさせていただきました頃に比べますと、会員数も二千名近く増えました。関東支部、中部支部も入れますと、たずさわっている役員数も百名近い大所帯になりました。役員の皆様の時代に合わせた合理化、充実をはかるための御努力、熱意には頭が下がります。京都本部でございますので、

しっかりとした根の張った大木の上に各支部という枝葉を大きく広げ、立派にたくましくなりたいと念じております。皆様のお役に立つために、この身を投じる所存でございます。

「三十年目の夢」

シスターメリーセリン 松本

原稿締切日が過ぎ焦りぎみであつたにもかかわらず、過去の会報になにげなく目を通していました。一九六八年の第三号に、「私の夢は山荘の建設の長期計画をして、ノートルダムの家庭的雰囲気をもりたてること、教養サークルを作り、児童文学研究会を作り、読書会をもつこと、教員と合体して英語アカデミーを作ったり、文化講習会を主催したりすること」などと書いていたとは、信じがたい驚きでした。実に四半世紀の時の流れの中に、このつたない言葉に表明されている夢が次第に実現へと向っているではありませんか。

ますが、私共の活動エネルギー源となります同窓会への関心と御協力を切にお願いいたします。今後の同窓会の御発展と会員皆様の御健康と御幸福を祈りながらあいさつの終わりとさせていただきます。

大学創立三十年目に、はからずも、同窓会の家を建てる計画が始められたのは不思議な摂理です。山荘とまでは望めなくても、卒業生の使える一軒家を大学の厚情、同窓会の積立金、設立委員の献身的な努力によって岩倉幡枝の地に建てられることになりました。英語の勉強会、聖書を読む会は既に十数年の実績をもっています。ボランティア活動も次第に盛んになっていきます。現行の活動をさらに発展させ、時代の要請にこたえて新しい分野を開拓し、家庭的雰囲気、生涯学習の家を誕生させるのは、もはや夢ではありません。

同窓会がこれからのように充実発展するかは、皆さん一人一人にかかっています。今一度、みんなで近い将来の夢を見ませんか。

ノートルダム女子大学 創立三十周年

記念式典に出席して

山本 秀子
(石岡 一期生)

十二月十日、京都国際会館の大会議場において、創立三十周年記念式典が盛大にとり行なわれました。私は昨年より同窓会館設立委員をさせていただいている関係で、招待状をいただき、この上なき光栄と存じ、感激ととまどいの中で、出席させていただき、後、学長様の挨拶がありました。三十年前、今は亡き初代学長のシスターメリーユーージニアを中心とした創立委員の方々の大変なご努力で、大学が誕生したこと、その後学生数も増え、卒業生も多方面で活躍していること、校舎も本館北側に設備の整った立派な別館が建築され、内外ともに

充実した大学に発展したことなどを述べられました。続いて、当日、大学設置委員としてご尽力下さいました猪木正道先生がご祝辞を述べられました。先生は当日、風邪気味でいらつしやつたにも拘らず、横浜から駆けつけて下さり、開学当時の苦労話やエピソードをメモ帳をめくりながら話されました。その当時学生であつた私達も、何度か聞かされていたかも知れませんが、今、改めてお聞きする事が出来、感慨無量でした。更に、設置委員の方々も猪木先生以外の皆様はすでに他界なさつたとの事で、ますます貴重なお話であつたと感激を一層深くした次第です。そして三十年という歴史の重みを感じ、三時間余りの式典でしたが、出席させていただいてほんとうに良かったと、心の底から流れ出る、すがすがしい喜びと昂ぶりを止めることが出来ませんでした。

末筆になりましたが、ノートルダム女子大学が今後ともますます発展される事を衷心よりお祈り申し上げます。

二期生 二十五周年を集う

初鹿 光子
(本田 二期生)

昨年五月十八日、二期生卒業二十五周年記念の同窓会が盛大に開かれました。鴨川べりのくに荘に、学長さまはじめ先生方、シスター方六名をお迎えして、六十六名の出席者が再会の喜びを分かち合いました。

色あせかけた写真が、あの時、歓声と共に、にわかに色彩を取り戻すのを見るような鮮烈なシーンでした。

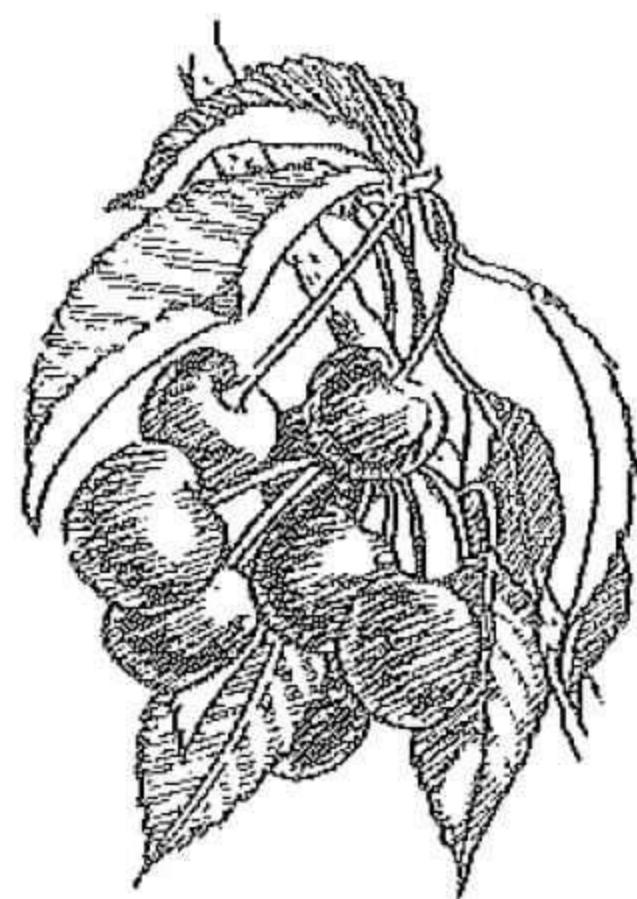
たくさんさんの友と握り合った手の温もり、短かい時を惜しんで言葉を交わし合った目の輝き……幸せな時を共有できた感謝と満足の思いが、今も心の奥底をゆったりと占めています。

卒業二十周年を迎えて

椿井 三千代
(村瀬 七期生)

第七期生卒業二十周年記念パーティーを、去年九月二十二日に私学会館において催しました。総勢二十五名、北は新潟、南は岡山から二十年ぶりに集まりました。なんと懐しかったことでしょう。胸は高鳴り涙が出てくる程の感激でした。皆んな年はとったものの、ハートは昔のまま、楽しく過ぎし日々を語り、友情を確かめました。

最後に一人づつマイクを持ち、自分達の近況報告、情報交換をし、記念撮影をして二年後の再会を約束しました。



三期生二十五周年 クラス会の御案内

松本 美佐代
(鳥原 三期生)

光陰矢の如しと申しますが、卒業以来早くも二十五年の歳月が流れ、いろいろな事が懐しく思い出される昨今でございます。皆様如何お過ごしでしょうか。此の度は趣向を変えて、学生時代に戻りたいに食べ、語り合っていただこうとホテルでの一泊を計画致しました。久方振りにご遠方の方々ともお会い出来るのを楽しみに致しております。万障お繰り合わせの上、皆様是非御出席下さい。

- 平成四年五月十六日(土) 三時より
- 場所 京都ガーデンホテル
- 会費 一万円
- 宿泊費 六千円

関東支部だより

小川 淳子
(熊倉 七期生)

平成三年十一月十七日に、京都より、学長様、シスターメリーセリオン、本部役員の方々に御出席いただき、関東支部同窓会を開催いたしました。四十階よりの展望もすばらしいホテルニューオータニに約九十名が集いました。母校創立三十周年を前に、皆、懐しい京都へと思いを馳せたひとときでした。

四月より八期が幹事の担当となりますので、入会ご希望の方は左記へご連絡下さい。

役員 塚脇明美(小坪 八期)

役員 加藤明美(甲谷 八期)
杉本芳子(加藤 八期)
岸村ちづ子(小寺八期)

中部支部だより

鳥澤 佳代
(田畑 五期生)

今回は、名古屋を離れて桑名シティホテル(山本様十四期経営)にて、第三回支部会を開く事が出来ました。シスターメリーセリオン、本部役員の方々の御出席を頂き、お天気にも恵まれ、食事の後、木曾三川を見学しました。

昨春、ティファニーのステンドグラスを鑑賞し昼食を頂く会に多くの方に参加頂きましたので、今年は、桜の頃に八事釜で、土に親しむ会を計画しております。

棚橋様が任期を終えられたので、水谷様(十二期)が、お手伝いくださいます。

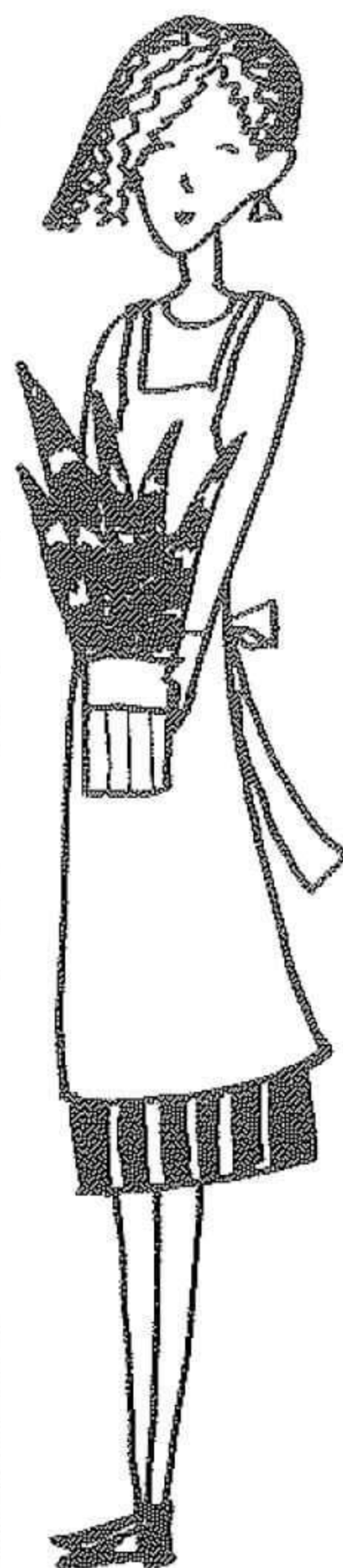


同窓会各種講習会ご案内

課目	講師	内 容	日 時・場 所	申し込み先
聖書	シスター メリーセリン	聖書の読んだ箇所各人の感想とシスターの解説	大学多用室 第四月曜日 五月二十五日開始 午後一時～三時(PHPの後) 名古屋聖心センター (地下鉄市役所前下車) 第二月曜日(祝祭日の場合休み) 午前十時半～十二時半	池 淵 律 子 加 藤 眞 理 子
PHPの 講読	シスター メリーセリン	PHPによる現代問題等の英文和訳と内容についての討論 (日本語で行われます)	大学多用室 第四月曜日五月二十五日開始 午前十時四十分～十二時半	小 永 井 宏 子
英 会 話	シスター メリージョアン	タイトルを決めてのスピーチや、フリーカンバセーション、能力に関係なく楽しく勉強できます。	大学にて 五月二十一日、六月四日、十八日 七月二日、十六日 午前十時半～十二時	小 野 佳 子
ボランティア 活動	手芸品製作(売り上げ金はインドネパールへ)		五月十五日、六月十九日 九月十八日、六月十六日 十一月二十日、大学多用室 午前十時～午後二時	辻 美 智 子

文化教養クラスを同窓会が主催するようになって以来、英語関係のクラスを中心に、過去にはアートフラワー、コーラス、食べ歩き等もありました。

秋には同窓会館完成に伴い、新しいクラスの開設を計画中ですので、皆様のご意見、ご希望をお聞かせ下さい。総会出欠の返信用葉書にお書き下さるなり、直接役員にご連絡をいただくなり、どうぞよろしくお願い致します。



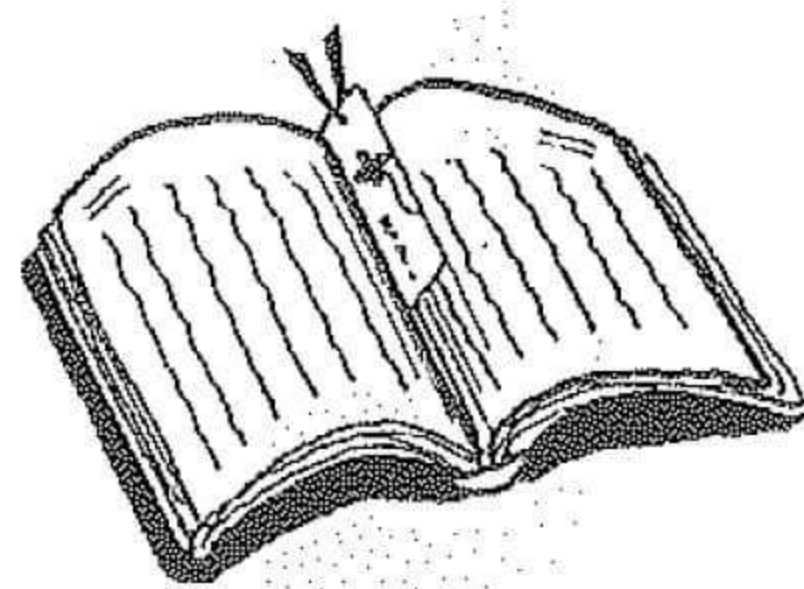
- 各クラス受講料は無料。
- ベビーシッターは有料ですが、可能ですので前もってご連絡下さい。
- お申し込み、くわしい日時・場所その他ご質問は各責任者になさって下さい。

楽しい英会話

榊原 糸

(十四期生)

二年前、息子も小学校に入ったことだし、私も何かを始めたけれど学校探ししたりするのも結構メンドーだしなあ、とか思っていた時、マリアンで英会話のクラスを知りました。「ND卒業生ばかりというのはなじみ易いかもしれないけど、もしガンガンバリバリの人ばかりやったらどうしよう。」とおそろおそろのぞいてみました。行ってみて大安心！皆さん十二分に楽しい方たちばかりです。シスタージョアンも親切でユーモアたっぷり。いつも笑い声の絶えないクラスです。そのあとのランチタイムも又楽しみの一つです。



講 読

永根 洋子
(植松 二期生)

近くに大学があるから入学、四年過ぎたから卒業した私ですから、何科卒業ですがという世間様の問いに、英文科ですと答える一秒の間、どれ程自分に云い訳をしてきたことでしょう。この状況は精神衛生上悪く、思案している矢先、シスターモーラが来口、卒業生にも講義して下さいました。晩年のK・アンポータは大きなエメラルドの指輪をしていました。等の生の英文学の感動は忘れられません。それからこのクラスが始まりました。シスター達の忍耐と笑顔につられて続けているうちに沢山の本を読み、「英文科です」と答えられるようになりました。皆様もいらつしゃいませんか。

聖 書

佐久山 泰子
(井上 二十四期生)

初めて聖書のクラスに参加させて頂いたのは、友人に誘われて何となく、というのがきっかけでした。その頃すでに妊娠三ヶ月だったのですが、聖書の授業なら胎教にも良いかと、とうとう臨月まで通わせて頂き、有意義なマタニティライフを過ごせたと感謝しております。

授業は堅苦しい聖書の解釈というよりは聖書を通して身近な問題を気軽に考えるといった興味深いものです。シスターや先輩方と、学生時代や子育ての話などをしながら頂く昼食の時間も、毎月足を運ぶ楽しみの一つです。皆さんも月に一度の楽しみを作ってみませんか。

P H P

縄 田 麻世子
(吹田 二十期生)

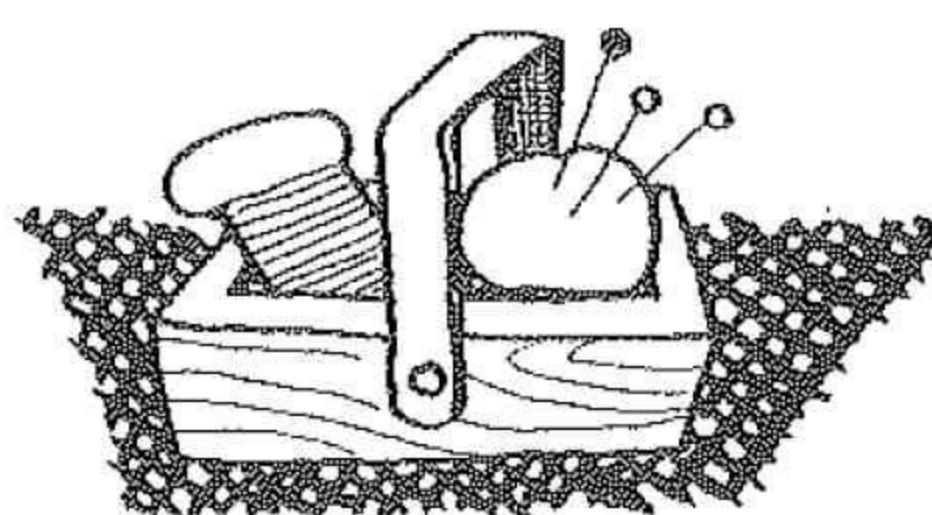
家事、育事に追われ何となく社会にソッポを向かれていますと感じていた時、PHPのお誘いがあり、クラスに参加させて頂くことになりました。辞書を片手に母校の門をくぐると、まるで学生時代にタイムスリップした様です。クラスは、優しいシスター、先輩方に後輩達とテキストを訳し、内容を楽しみつつ幅広く社会の勉強をすることが出来、その日は若返った気にさえなります。

「いさんの奥さん」や「いちゃんのお母さん」でもない自分の名前を呼んで頂けるひとときにも感謝しております。

手芸を通しての活動

辻 美智子
(磯田 四期生)

手芸のボランティア活動が始まって、六年の歳月が経ちます。沢山の作品を工夫しながら楽しく過しています。継続してこれたのも、皆様の暖かいご支援と、ご協力の賜だと感謝しています。月一度の数時間の奉仕ですが、手を動かして、子供の事、将来の事等語り合い、ストレス解消の時もあります。幸せな生活に感謝し、社会に目を向け貢献出来ればとても嬉しい事です。手芸の得意不得意に関係なく、是非一度、皆様のご参加をお待ちしています。きっと楽しい作品創りになり小さな奉仕に協力出来ますよ。



祝
御退官

三月をもちまして、シスターテレサマーガレットが停年退官なさいました。昭和二十六年に来日され、十年間、ノートルダム女学院にて教鞭をとられた後、昭和三十九年より大学に移られました。調理実習、原書講読、家庭科教育法等を担当され、長年大学教育にご貢献下さいました。深い感謝をもって、心からお祝い申し上げます。

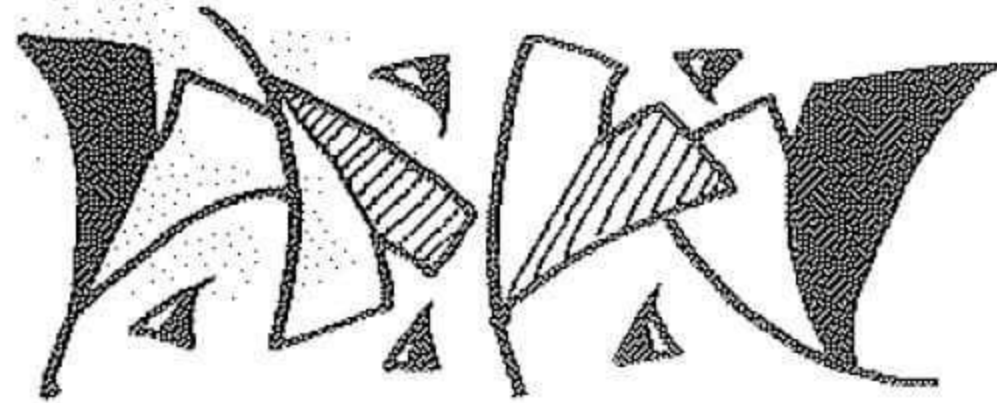


「インドへ友愛の手を！」

シスターポーラ岩城

この制度は「教育を通して自立を助ける」ことを目的としたもので、一九七九年にはじまりました。貧しくて、学齢に達していても学校には行けず、家計を助けるために働いている子供が多く、この子供たちに、まず教育を受けさせたいという願いから発足したものです。今では援助を受けている子供は三千人を超え、また日本各地で援助をしてくださっている方々は二千人近くいらっしゃるようです。ノートルダム女子大学の同窓会の方々からいろいろな形でご協力をいただいています。

インドでは、ノートルダムのシスターではなく、他の修道会のインド人のシスターがいつも子供たち、その家庭、



地域の状況を見守り、日本からの送金の範囲で、その時々が必要に応じた具体的な援助をしていただいています。援助をしている地域もずいぶんふえました。あ、あの広いインドの中では氷山の一角にすぎません。どうぞ今後とも皆さま方のご協力をお願いします。

なお、昨年からグジャラト州コウト村に職業訓練校を建設する予定で準備をすすめています。今年がそれが完成するよう願っています。

ご連絡、お問い合わせは、ノートルダム女子大学内「インドへ友愛の手を！」事務局

ネパールから感謝とお願い

シスタードロレス

ネパールのノートルダム校はもう新年度が始まりました。昨年お知らせした校舎完成のお蔭で、ともかくも教育環境が整い始めましたが、まだ不足している教室や特別室の建設という課題に対応していくのはこれからです。

この六年間のND教育を見聞きした地域全体の人々が我が子を入学させようと集まったので、可能な限り許可したとはいえ、今年も要望に応え切れぬ状態でした。最終的に生徒総数約三百名、学年は七年生までとなりましたが、幼稚部は余力大勢のため、二部制にせざるを得ませんでした。でも教育制度全体の質や親の意識が決して高いといえぬネパール山間部の貧しい現状の中で、ND校の存在が人々に子どもの教育の機会を考えさせるよすがとなり、それがニーズとして現われているとすれば、それを生かしていく教育を更に推進することが大切だと思ふのです。

でもここまで実現できたのは

は皆さまの支えあればこそでした。感謝とともに今後のご支援よろしくお願いいたします。

お問い合わせは、ノートルダム教育修道女会



役員会だより

新本部役員は次のように決まりました。

会長 高山 敦子(和泉4)

副会長 林 満智子(寺田3)

会計 西村 品子(西村5)

小野 佳子(谷出6)

書記 下水木淑子(森橋9)

小永井宏子(田中4)

伊吹 佳子(松本5)

庶務 林寺真智子(浮田5)

山村美佐子(平松5)

坂井 陽子(安達6)

人長久巳子(東7)

会計監査 垣田加代子(瀬川6)

平成三年度のマリアン・スカラシップ貸与者は一名と決定致しましたので、御報告申し上げます。

同窓生の住所等の変更、お問い合わせは、同窓会本部宛、葉書か手紙でお願い致します。大学へのお電話でのお問い合わせはご遠慮下さい。

一九九一年度活動報告

五月

○各種文化教養クラス春期開始(四月より)

○総会準備打ち合わせ

○総会

○本部新役員活動開始

○支部会との役員会開催

○ボランティア活動開始

六月

○学年委員会

○次年度総会準備開始

○名簿整理

七月

○大学別館竣工式出席

九月

○各種文化教養クラス秋期開始

十月

○ND学院小学校、ND女学院及びND大学各同窓会の役員との交流会参加

○小倉親雄教授告別式参列

十一月

○大学祭バザー参加

○中部支部会出席

○関東支部会出席

○マリアンスカラシップ貸与

十二月

○文化教養クラス親睦クリスマス

マスパーティ

○大学創立三十周年記念式典出席

○「マリアン」二十二号原稿依頼

○同窓会館建設契約成立

○同窓会館建設のための募金準備開始

一月

○各種文化教養クラス冬期開始

○名簿整理

二月

○「マリアン」二十二号編集開始

○募金委員結団式

三月

○新入会員への説明会

○平成三年度会計報告書作成

○平成四年度予算案作成

○第二十八回卒業式参列

○同窓会館起工式

四月

○「マリアン」二十二号等発送

○総会準備

平成二年度会計報告

収	入
前年度繰越金	70,478,684
終身会費	5,310,000
資産運用利益	3,442,860
スカラシップ返済金	80,000
名簿代金	2,317,860
合 計	81,629,404

次年度(平成三年)繰越金	
貸付信託	67,140,000
金銭信託	650,289
普通預金	4,978,272
現金	2,059
郵便局(名簿)	125,080
合 計	72,895,700

支	出
総会費用	491,340
マリアンスカラシップ	430,700
卒業記念費	287,370
通信費	2,247,237
印刷費	3,700,813
関東支部活動費	150,000
〃 設立援助費	500,000
中部支部活動費	150,000
文具消耗費	11,283
交通費	20,000
クラスアクティビティー	288,819
雑費	144,764
慶弔費	100,000
会議費	211,378
合 計	8,733,704

大学からのお知らせ

(1)「ノートルダム女子大学三

十年史」

平成三年十二月十日

ノートルダム女子大学発行
三千円(申し込みは同窓会へ)

(2)「解放の神学」

一九八五年刊行

シスターアナスタシア著

一三六〇円(定価の二割引
き、お申し込みはキリスト
教文化研究所へ)

(3)一九九一年度夏期英語講座

への御案内

—卒業生の皆様へ—
楽しみながら英語が上達す
る私たちの夏期英語講座へふ
るって御参加下さい。

場所 ノートルダム女子大学

日時 八月三日(月)～八月七

日(金) 九時～四時

内容 基本的な聞き話す技術

をさらに向上させます。

クラス 五クラス(四クラス

は教室で、一クラスは

講師

Lしで)

アメリカからいらっし

やる四人のシスターと

シスタージョアン。

費用

五日間：二万五千円

(この内五千円は、申し
込みの時に払って頂き
ます。この五千円はキ
ャンセルされてもお返
し致しません。)

注意

学校には宿泊できませ
ん。昼食は持参して下
さい。参加者と一緒に
頂きます。

申し込み 参加御希望の方は、

住所を記入した返信用
封筒を同封して、左記
の住所へお申し込み下
さい。〒606 左京区下鴨南
野々神町一 ノートル
ダム女子大学 シスタ
ージョンシュミット

(4)「ギャフエテリア」をご利用

下さい。昨年完成した喫茶
軽食のお店に卒業生もお立
ち寄り下さい。

祝御入会

本年度は、英語英文学科一

五三名、生活文化学科六七

名が三月十二日に御卒業に
なり、同時に第二十八期の

同窓会員となりました。

御入会を歓迎いたします。

これで同窓会員数は、六、
一四九名となりました。

本年度二十八期の学年委員

は次の方にお願ひします。

英語英文学科
中川智香子・山中 尉江
生活文化学科
西村 和香・戸田早映子

おねがい

毎年、十一月三日の大学祭

に参加しております同窓会

のバザーは御好評をいただ
いております。それも皆様方からの御寄贈のお蔭と、
厚くお礼申し上げます。本年度も、御寄贈していただ
けるお品がございましたら、同窓会宛ご郵送下さい。何
れの品物でも結構です。(古
着は除く)

ボランティア活動の作品の

売り上げ金はインド、ネパ
ールの活動へ寄附し、寄贈
品の売り上げ金は同窓会館
設備充実の為に使用させて
いただく予定でございます
ので、御協力をお願い申し
上げます。

おくやみ

左記の方々がお亡くなり
になりました。御冥福を心
からお祈り申し上げます。

形舞武男様 (元庶務部長)

平成三年六月二十三日

松木泉先生(元非常勤講師)

平成三年六月二十六日

堀江保蔵先生(元非常勤講師)

平成三年八月二十三日

小倉親雄先生(元教授)

平成三年十月七日

小池佳代子様(松田十二期生)

平成三年三月二十四日

太田芙美子様(長田三期生)

平成三年四月二十八日

山西照子様(長谷川二十三期生)

平成三年十一月五日

編集後記

今年度もマリアン二十二号
を皆様のお手元にお届けする
事が出来、幸せに存じます。
今号は同窓会館設立の特集号
と致しました。原稿をお寄せ
下さいました皆様方に心から
感謝申し上げます。マリアン
について御意見、御希望がご
さいましたら、いつでもお聞
かせ下さい。